

# ギラヴァンツ北九州が地域に根付くために必要なホームタウン活動

曾我部 快渡（長崎大学）

## I. 問題の背景

J リーグでは「百年構想」というスローガンのもと、豊かなスポーツ文化の醸成を目指している。その具体的な活動の一つにホームタウン(以下HT)活動がある。HT活動とは、「地域に愛されるクラブになるためにホームタウンの人々と心を通わせるための活動」(J リーグ)である。J クラブが地域に根付くために、HT活動はどれほど重要な役割を担っているのだろうか。

## II. 目的及び方法

本研究の目的は、J クラブが地域に根付くために必要なHT活動について明らかにすることである。研究対象は福岡県北九州市をHTとするギラヴァンツ北九州(以下ギラヴァンツ)である。

研究方法は、文献考察やインタビュー調査等のフィールドワークである。インタビュー調査の対象は、(株)ギラヴァンツ北九州代表取締役社長の玉井行人氏、同相談役で前社長の原憲一氏、同事業本部地域密着グループ主任の中村亮二氏の3名である。

## III. 結果及び考察

2010年にJリーグに参入したギラヴァンツだが、南(2013)も述べるように、当時は「選手は試合に集中して、結果でアピールすべき」というクラブ方針により、HT活動の充実は図られなかった。2014年にはJ1昇格プレーオフ圏内であるリーグ5位の好成績を残しても、入場者数はJ2リーグ22チーム中21位の結果であった。市民がギラヴァンツに対して興味をあまり示さない状況になってしまったのである。

ギラヴァンツはこのような状況を打開するため、近年HT活動や地域貢献活動を改善している。2018年のHT活動回数は1,364回でJリーグ全54クラブ中3位となっている。過去のギラヴァンツと比較すると、HT活動に対する姿勢は大きく変化している。例えば、市内の商店や文化施設と協力して地元を盛り上げるサポートショップ事業にも力を入れている。市民のギラヴァンツに対する意識は変化しつつ

あり、2019シーズンの平均入場者数は6,049人と過去最高を記録した。地域貢献によって市民がギラヴァンツへ関心を寄せている状況である。HT活動等を通して市民の思いがシビックプライド(誇りや愛着)に変わることによって、北九州にギラヴァンツやサッカー文化が根付くための一歩になるだろう。

近年のギラヴァンツのHT活動の根幹に「社会連携活動(通称: シャレン!)」がある。これはJリーグが主催し、社会問題等に企業・団体・個人が連携して取り組む活動であり、必ず3つ以上の機関で協働しなければならない。また北九州市は2018年にSDGs未来都市に選定されている。ギラヴァンツもそれに応じてSDGs達成に積極的な姿勢を示している。行政や市民も環境への関心が高く、SDGsは北九州市の特徴である。これを踏まえ、新たなHT活動にキネティックタイルの活用を提案したい。このタイルは、タイルを人が踏む事により得た振動を電力に変えることができる。このタイルをスタジアムのゲート付近やゴール裏スタンドに設置することで、サポーターの応援が選手を突き動かす活力となり、スタジアムを照らす電力にもなるのである。この活動は、設置や普及に多くの企業や市との連携が必要であり、「シャレン!」に該当する。さらに次世代エネルギーを利用しておりSDGs項目の⑦「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」、⑩「住み続けられるまちづくり」の達成にも繋がる。インタビューの中で、玉井氏は「どこにでもないクラブを作るのが一番大事。そのためには『らしさ』が必要。」と述べている。

ギラヴァンツが地域に根付くために必要なHT活動とは、北九州の特徴を生かした『北九州らしさ』のある活動である。そのようなHT活動で市民のシビックプライドを醸成できることが重要である。

## IV. 主要参考文献

- ・南博(2011-2015)ギラヴァンツは北九州に何をもたらすのか(全13回).公益財団法人アジア成長研究所.
- ・公益社団法人日本プロサッカーリーグ.Jリーグホームタウン活動調査2018年版.